

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100875		
法人名	有限会社 九州松栄産業		
事業所名	黒髪しょうぶ苑		
所在地	熊本市黒髪5丁目4-30		
自己評価作成日	平成23年7月4日	評価結果市町村報告日	平成23年8月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市上通町3-15 ステラ上通ビル4F		
訪問調査日	平成23年7月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広々とした間取り静かな環境の中で、ご自分の力で自分らしく生活を営むことができる様に支援している。身体的には現状維持を保てる様、毎日の散歩と生活リハビリの中で培い精神面ではお一人お一人の話をゆっくりと傾聴し、心の安らぎを持ち多くの笑顔を引き出している。心と心の繋がりを大切にしている。看取り介護については、ご家族・ご本人の希望があればご家族・主治医と連携を図りながらサポートする体制をとっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周囲を大学キャンパスに囲まれながらも最近民家が建ち始まった新興住宅街に位置し、デイサービスや小規模多機能などの介護施設を併設したホームである。開設一年目を迎え、職員も入居者の方も落ち着いてきており、毎日の散歩を日課とされている入居者もおられ、一人ひとりの希望に沿ったケアを実施している。計画的な外出・外食や毎日のラジオ体操やレクリエーションが身体機能低下防止になっており、のびのびと明るく元気な生活を送れるよう支援している。今後は地域におけるグループホームや認知症への理解・啓発への取り組み、さらに自己評価を全職員で行い、ケアの向上に活かされることに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき、その人らしく自己決定の基本生活を送れる様に支援している。	苑として開設前から園長と部長で考えた理念の他にも各ユニットごとに介護理念を作成している。	理念は目の付くところに掲示し、家族・地域住民・職員と共有したり、振り返る機会を持つ取り組みにも期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加・日常的な買い物・散歩を通じて地域の中で生活している一員であることを念頭に置き対応している。	自治会に加入し、町内の朝市に駐車場の場所を提供したり、会議室を貸すなど地域の一員であることを念頭に対応を行っている。近隣の中学校の運動会の見学に行ったり、熊大の実習生を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常的に行っているケアの積み重ねや苑としてのこれからの在り方思いを含め運営推進会議や、地域の人達との交流の場を通じて認知症の理解を求めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎に一回開催し、現状報告。現在の課題等を報告し、それに対しての意見を頂いている。今後黒髪しようぶ苑の果たせる役割についても毎回意見を頂いている。	開催日を奇数月と定めている。町内の自治会長、民生委員、老人会の会長等をメンバーとし、ホームの現状報告をし、課題についての意見も出ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に、地域包括支援センターより参加してもらい助言を頂いている。運営に関する事は、熊本市役所の担当者に確認するなど気軽に相談にのって頂ける。今後介護サービス支援員も希望している。	市役所の担当者とは電話等で連絡を取り合い相談したり、情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の影響を理解した上で、日常的な扉の施錠や、身体拘束するケアをしない様に、安全面に配慮するよう努力している。	研修会などで身体拘束による弊害等を正しく理解している。日頃から施錠せず自由に入居できるようにしており、入居者の方も運動を兼ねて駐車場を自由に行き来している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング・勉強会で職員は学ぶ機会を設けており、討論形式で行う時もある。入浴時のボディチェックを行い、又日常生活での変化表情に注意している。		

グループホーム 黒髪しようぶ苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在活用されている方はいらっしゃらない。勉強会で学ぶ機会を設けているが、全員理解している状況には至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に分かりやすい言葉で説明するよう心掛けている。契約後も疑問点やご不明な点がないか、お伺いするように心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様、ご家族からのご要望には迅速に対応し、実現出来る様努力している。担当制を設けており、訴えられない利用者様もいらっしゃる為スタッフからの伺う機会を設けている。	家族会や面会時に状況を報告して、意見や要望を聞くよう努めている。担当制を導入しており、季節ごとの入れ替えなど家族に呼びかけたり、一緒に行うようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフからの要望・意見等は迅速に対応出来る様努力している。必要によっては各委員会、リーダー会議、ミーティングにもちより検討している。	管理者は毎月のミーティングで職員の意見や要望を聞いたり、職員一人ひとりとノートで気持ちを伝えるシステムをとっている。把握した意見は会議で検討したり、苑長に伝えて改善するように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいや向上心を持つ事が出来る苑内研修を整備している。職員の意見が述べやすい環境作りに努力している。提案に対しては、検討し取組み達成感を感じてもらえる様にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑全体でのスキルアップ研修を月に一回行っている。グループホームでのミーティングでは、各々に課題と発表の場を与え実践している。また各々ノートを作り研修内容だったり、悩んでいる事を書き提出。それに対して管理者が応える様にしておりスタッフの心の動きを見逃さない様に努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との職員間交流には、出来る限りの職員に体験させたい。連絡協議会に参加し、市の動向等についても話す機会を設けられる様努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	受け入れ決定後、ご家族・ご本人の要望、状態を把握し、全職員で共有する様にしている。入所後の変化は大きく予測つかぬ事もあり、表情・行動を通じて心の中まで組み取るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望・苦言に関しても、気軽にご家族が話していただける雰囲気作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	安心感も持って頂く事を最優先にしておりそれに対する個々の具体策を実行している。お一人お一人の入居生活に関して、段階を追って支援していける様に努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お一人お一人の出来る事、支援の程度をいち早く把握し共有する様にしている。出来る事を一緒にやる事により喜びを分かち合い、出来ない事に少しの手伝いをさせて頂き、出来た喜びも一緒に味わえる様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来苑時ご利用者の状態報告をし、その際ご家族の大切さを伝える様にしている。これからもご家族と深い信頼関係を結び協力しながらご本人を支援する関係を大切にしたいと思う。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係が途切れない様に、手紙や電話、個別対応、報告書を活かしている。職員もその必要性をしっかりと理解し、間隔が空く様になったらこちらから投げかけてみる等の工夫が必要である。	家族の協力を得ながら今までの行きつけの美容室に出かけたり、デイサービス利用者の仲介で知人と手紙や連絡を取り合うなど馴染みの関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が孤独感を感じない様に、日常的に表情・発語に注意して。又変化を素早く察知し対応する様に心掛けている。利用者間のコミュニケーションは側で見守り、必要な時は間に入る様にしている。		

グループホーム 黒髪しようぶ苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご家族が訪ねて下さり困られた時に、いつでも相談して下さる様な環境作りに努めている。いつでも側面からでも支援していきたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご自分の思い意向を伝えられる程度は様々である為、その方の現状に合わせ組みとれる様にカンファレンスを重ねている。お一人お一人の思いを最優先に共同生活の中で生かせる様に考えている。	家族の情報や日々の会話の中から意向を把握するように努めている。意思表示の困難な方は表情の変化など、職員の気づきなどを話し合っており、一人ひとりの思いを検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族・来苑された知人から今までの生き方、考え方、人柄等について話を聞きその思いを職員共有出来、これからの対応に生かせる様しているが、現状その限りではない。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間の生活チェック表を基に、睡眠・排泄・バイタルを記録している。細かい変化を見逃さず迅速な対応を目指している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを行いサービス内容の検討をしている。モニタリングの結果報告時に家族からの要望を再確認している。現状に即した介護計画である様心掛けている。	家族や入居者の意向をもとに計画作成担当者が計画を作成し、ミーティングで職員の意見を聞いている。定期的なモニタリングを行い、現状に即した計画を作成するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者単位で経過記録し、気づき提案は担当者を中心に行っている。その都度カンファレンスを行い介護計画の見直しを行っている。徹底した送りりとノートを活用し共有化を計っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	固定観念にとらわれずに必要なニーズに対応していける柔軟な姿勢・考え方を全職員で取り組んでいる。		

グループホーム 黒髪しようぶ苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用し、一人ひとりの楽しみ方・喜びの受け止め方を日々模索している。発揮出来る力、持てる力を把握し楽しみの中にも安全な生活を目指している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの入居者が訪問診療を受けている。緊急時はもとより日常の健康管理に関しても、主治医と家族との橋渡しの役割に努め、3者の信頼関係を築いている。	家族や入居者の希望するかかりつけ医とし、ほとんどが協力医療機関の訪問診療を受けている。家族にも状況報告をし共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と同じ日々の関わりを持ち、自分の目で見、又は他職員からの気づきについても早急に対応してもらっている。家族への連絡・主治医との連携を計りながら、安心安全な生活を側面より支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は、全職員出来るだけお見舞いに行き状態の把握に努めている。担当看護師・主治医との関わりを持ち、早期退院を目指している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りの指針を説明している。家族にとっては大切な事・関心事として捉え、家族会でも再度苑の考え方を、質問形式で説明している。これからは職員の意識の統一を図り、万全の態勢で臨める様努力していくつもりである。	看取りについての指針を文書化し、契約時に家族に説明し同意書も得ている。家族会でも再度方針を説明している。状態に変化が生じた時は、医師・家族・職員と話し合い家族の希望に添える支援するようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実践力については、不安を抱えているが定期的な勉強会を設け、全職員対応出来る様努めたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練に関しては、年2回計画している。非常事態時の地域との協力体制は、運営推進会議を通じ地域の役員さんと話をすすめている。地震時には、当苑が避難場所として大きな役割を担っていると思う。	年2回避難訓練を実施するようにしている。	建物の構造上、入居者も参加した避難訓練を実施し確認しあうことも期待します。

グループホーム 黒髪しようぶ苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬愛、尊敬を念頭に置き、言葉かけや関わりをもっている。	人生の先輩として人格を尊重した言葉かけや対応を行っている。失禁時などにもプライバシーに配慮した対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	強制する事はなく、一人ひとりの自己決定に関しては、職員より提案はしても側面からの支援に徹している。又、固定観念に捉われず、すべてに敬意を払っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、業務を優先させてはいない。その方らしい生活とペースを守り、楽しく穏やかに過ごして頂ける様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時のお化粧、洋服選びを一緒に話し合い手伝っている。入浴後の髪型の工夫。マニキュア。定期的な訪問カット。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に厨房より嗜好調査を行っている。又、無理なく谷氏く食べて頂ける様に、食形態にも日々注意を払っている。出来る事から始め、協力形態は様々であるが、全員参加を目指している。	管理栄養士が献立を立て苑全体の厨房で調理を行っている。ホームでは朝食の準備とご飯を炊くようにし、配膳などは入居者と一緒に行っている。	生活リハビリや入居者の潜在能力を引き出す機会として、ホームでの食事づくりの回数を増やされることを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の記録はもとより、定期的な血液検査を行い不足の補給と方法を工夫している。家族にも来苑時には、必ず食事に関しては報告している。家族からの持ち込みも了承している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後自分で行ったにち、チェックケアを行っている。早期発見に努め、訪問歯科医院と連携をとり、早期対応に努めている。		

グループホーム 黒髪しようぶ苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを理解した上で、ケアにあたっている。昼夜トイレでの排泄を目指している。	排泄パターンを把握し、声かけや誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。自立している方も多く、失禁などがあつた時はさりげなく支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食事、バランスの取れた食事の提供を行っている。毎日の散歩を始め室内での運動ニギニギ体操等、個々に合わせた運動も行っている。慢性便秘の方に関しては、主治医と看護師と相談し対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	入浴可能な時間は決めているが、出来る限り希望の時間に合わせる様に努力し支援している。安心安全な入浴である様、細心の注意を払っている。	入居者の希望に応じた入浴支援を行い、入浴拒否の方には声かけに配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつ、どこで過ごされようとも自由であり、個々の希望に沿つた支援を行っている。居室の環境整備に努め、室温・湿度にも注意を払っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ミーティングの勉強会でも、利用者の薬に関して勉強している。個々の情報はファイルし、職員誰でも見れる様にしている。体調管理ノートを作成し、訪問診療時の主治医の指示も、全職員共有出来る様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を参考にしているが、興味・好み・残存能力にも違いがある為、今を大切にしている。提案→実行→喜び、につなげて行きたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々のその日の希望に沿つた外出は出来ていないが、季節ごとの外出・外食には出かけている。日をずらして、一人ひとりの希望の外出場所には出掛ける様努めている。家族との外出・外食は勧めている。	日常的には周辺の散歩に出かけている。亡御主人に供する草花を摘んでこられる入居者もおられる。季節ごとの花見やサーカス見物などの外出、外食にも良く出かけて入居者の楽しみになっている。	



グループホーム 黒髪しようぶ苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力・家族の話し合いで支援している。外出時は、家族の理解を得て、使える様にしている。レジでの支払いも、スタッフの元個々に行ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の気持ちを理解した上で支援を行っている。遠くにいる家族には、状況報告と写真・入居者の自室の手紙を添えやり取りを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、入居者が心地よく生活する空間である為、自然な風・光を取り入れる様にしている。又、室温・湿度にも十分配慮している。	ユニットごと入居者の状況に応じて、テーブルの配置を考慮したり、和室やソファで思い思いに過ごすことができるように工夫している。室温もこまめにチェックし快適に過ごせるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングテーブルとは別に、広々とした空間にソファを置き、思い思いに利用されている。テラスにはベンチを置き、ゆっくりと過ごせる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物、共に人生を歩んで来られた物、思い出深いものを持ってきて頂ける様に、家族に協力をお願いしている。	入居者の馴染みの家具やテーブル・ソファなどの持込があり、一人ひとりに応じた居室作りを支援している。家族の写真や草花を飾り、その人らしい特徴のある部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示・行事案内・お知らせの掲示。手すり、バリアフリーの設置で建物内を自由に過ごす事が出来る様支援している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100875		
法人名	有限会社 九州松栄産業		
事業所名	黒髪しょうぶ苑		
所在地	熊本市黒髪5丁目4-30		
自己評価作成日	平成23年7月4日	評価結果市町村報告日	平成23年8月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市上通町3-15 ステラ上通ビル4F
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広々とした間取り静かな環境の中で、ご自分の力で自分らしく生活を営むことができる様に支援している。身体的には現状維持を保てる様、毎日の散歩と生活リハビリの中で培い精神面ではお一人お一人の話をゆっくりと傾聴し、心の安らぎを持ち多くの笑顔を引き出している。心と心の繋がりを大切にしている。看取り介護については、ご家族・ご本人の希望があればご家族・主治医と連携を図りながらサポートする体制をとっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき、その人らしく自己決定の基本生活を送れる様に支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加・日常的な買い物・散歩を通じて地域の中で生活している一員であることを念頭に置き対応している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常的に行っているケアの積み重ねや苑としてのこれからの在り方思いを含め運営推進会議や、地域の人達との交流の場を通じて認知症の理解を求めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎に一回開催し、現状報告。現在の課題等を報告し、それに対する意見を頂いている。今後黒髪しようぶ苑の果たせる役割についても毎回意見を頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に、地域包括支援センターより参加してもらい助言を頂いている。運営に関する事は、熊本市役所の担当者に確認するなど気軽に相談にのって頂ける。今後介護サービス支援員も希望している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の影響を理解した上で、日常的な扉の施錠や、身体拘束するケアをしない様に、安全面に配慮するよう努力している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング・勉強会で職員は学ぶ機会を設けており、討論形式で行う時もある。入浴時のボディチェックを行い、又日常生活での変化表情に注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在活用されている方はいらっしゃらない。勉強会で学ぶ機会を設けているが、全員理解している状況には至っていない。		

9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に分かりやすい言葉で説明するよう心掛けている。契約後も疑問点やご不明な点がないか、お伺いするように心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様、ご家族からのご要望には迅速に対応し、実現出来る様努力している。担当制を設けており、訴えられない利用者様もいらっしゃる為スタッフからの伺う機会を設けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフからの要望・意見等は迅速に対応出来る様努力している。必要によっては各委員会、リーダー会議、ミーティングにもちより検討している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいや向上心を持つ事が出来る苑内研修を整備している。職員の意見が述べやすい環境作りに努力している。提案に対しては、検討し取組み達成感を感じてもらえる様にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑全体でのスキルアップ研修を月に一回行っている。グループホームでのミーティングでは、各々に課題と発表の場を与え実践している。また各々ノートを作り研修内容だったり、悩んでいる事を書き提出。それに対して管理者が応える様にしておりスタッフの心の動きを見逃さない様に努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との職員間交流には、出来る限りの職員に体験させたい。連絡協議会に参加し、市の動向等についても話す機会を設けられる様努力している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	受け入れ決定後、ご家族・ご本人の要望、状態を把握し、全職員で共有する様にしている。入所後の変化は大きく予測つかぬ事もあり、表情・行動を通じて心の中まで組み取るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望・苦言に関しても、気軽にご家族が話していただける雰囲気作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	安心感も持って頂く事を最優先にしておりそれに対する個々の具体策を実行している。お一人お一人の同居生活に関して、階段を追って支援していける様に努力している。		

18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お一人お一人の出来る事、支援の程度をいち早く把握し共有する様にしている。出来る事を一緒にやる事により喜びを分かち合い、出来ない事に少しの手伝いをさせて頂き、出来た喜びも一緒に味わえる様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来苑時ご利用者の状態報告をし、その際ご家族の大切さを伝える様にしている。これからもご家族と深い信頼関係を結び協力しながらご本人を支援する関係を大切にしたいと思う。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係が途切れない様に、手紙や電話、個別対応、報告書を活かしている。職員もその必要性をしっかりと理解し、間隔が空く様になったらこちらから投げかけてみる等の工夫が必要である。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が孤独感を感じない様に、日常的に表情・発語に注意して。又変化を素早く察知し対応する様に心掛けている。利用者間のコミュニケーションは側で見守り、必要な時は間に入る様にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご家族が訪ねて下さり困られた時に、いつでも相談して下さる様な環境作りに努めている。いつでも側面からでも支援していきたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご自分の思い意向を伝えられる程度は様々である為、その方の現状に合わせ組みとれる様にカンファレンスを重ねている。お一人お一人の思いを最優先に共同生活の中で生かせる様に考えている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族・来苑された知人から今までの生き方、考え方、人柄等について話を聞きその思いを職員共有出来、これからの対応に生かせる様しているが、現状その限りではない。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間の生活チェック表を基に、睡眠・排泄・バイタルを記録している。細かい変化を見逃さず迅速な対応を目指している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを行いサービス内容の検討をしている。モニタリングの結果報告時に家族からの要望を再確認している。現状に即した介護計画である様心掛けている。		

27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者単位で経過記録し、気づき提案は担当者を中心に行っている。その都度カンファレンスを行い介護計画の見直しを行っている。徹底した送りりとノートを活用し共有化を計っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	固定観念にとらわれずに必要なニーズに対応していける柔軟な姿勢・考え方を全職員で取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用し、一人ひとりの楽しみ方・喜びの受け止め方を日々模索している。発揮出来る力、持てる力を把握し楽しみの中にも安全な生活を目指している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの入居者が訪問診療を受けている。緊急時はもとより日常の健康管理に関しても、主治医と家族との橋渡しの役割に努め、3者の信頼関係を築いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と同じ日々の関わりを持ち、自分の目で見て、又は他職員からの気づきについても早急に対応してもらっている。家族への連絡・主治医との連携を計りながら、安心安全な生活を側面より支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は、全職員出来るだけお見舞いに行き状態の把握に努めている。担当看護師・主治医との関わりを持ち、早期退院を目指している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですでできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りの指針を説明している。家族にとっては大切な事・関心事として捉え、家族会でも再度苑の考え方を、質問形式で説明している。これからも職員の意識の統一を図り、万全の態勢で臨める様努力していくつもりである。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実践力については、不安を抱えているが定期的な勉強会を設け、全職員対応出来る様努めたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練に関しては、年2回計画している。非常事態時の地域との協力体制は、運営推進会議を通じ地域の役員さんと話をすすめている。地震時には、当苑が避難場所として大きな役割を担っていると思う。		

**IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援**

36	(14) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬愛、尊敬を念頭に置き、言葉かけや関わりをもっている。		
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	強制する事はなく、一人ひとりの自己決定に関しては、職員より提案はしても側面からの支援に徹している。又、固定観念に捉われず、すべてに敬意を払っている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて、業務を優先させてはいない。その方らしい生活とペースを守り、楽しく穏やかに過ごして頂ける様支援している。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時のお化粧品、洋服選びを一緒に話し合い手伝っている。入浴後の髪型の工夫。マニキュア。定期的な訪問カット。		
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に厨房より嗜好調査を行っている。又、無理なく谷氏く食べて頂ける様に、食形態にも日々注意を払っている。出来る事から始め、協力形態は様々であるが、全員参加を目指している。		
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の記録はもとより、定期的な血液検査を行い不足の補給と方法を工夫している。家族にも来苑時には、必ず食事に関しては報告している。家族からの持ち込みも了承している。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後自分で行ったにち、チェックケアを行っている。早期発見に努め、訪問歯科医院と連携をとり、早期対応に努めている。		
43	(16) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを理解した上で、ケアにあたっている。昼夜トイレでの排泄を目指している。		
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食事、バランスの取れた食事の提供を行っている。毎日の散歩を始め室内での運動ニギニギ体操等、個々に合わせた運動も行っている。慢性便秘の方に関しては、主治医と看護師と相談し対応している。		

45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴可能な時間は決めているが、出来る限り希望の時間に合わせる様に努力し支援している。安心安全な入浴である様、細心の注意を払っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつ、どこで過ごされようとも自由であり、個々の希望に沿った支援を行っている。居室の環境整備に努め、室温・湿度にも注意を払っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ミーティングの勉強会でも、利用者の薬に関して勉強している。個々の情報はファイルし、職員誰でも見れる様にしている。体調管理ノートを作成し、訪問診療時の主治医の指示も、全職員共有出来る様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を参考にしているが、興味・好み・残存能力にも違いがある為、今を大切にしている。提案→実行→喜び、につなげて行きたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々のその日の希望に沿った外出は出来ていないが、季節ごとの外出・外食には出かけている。日をずらして、一人ひとりの希望の外出場所には出掛ける様努めている。家族との外出・外食は勧めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力・家族の話し合いで支援している。外出時は、家族の理解を得て、使える様にしている。レジでの支払いも、スタッフの元々に行ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の気持ちを理解した上で支援を行っている。遠くにいる家族には、状況報告と写真・入居者の自室の手紙を添えやり取りを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、入居者が心地よく生活する空間である為、自然な風・光を取り入れる様にしている。又、室温・湿度にも十分配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングテーブルとは別に、広々とした空間にソファを置き、思い思いに利用されている。テラスにはベンチを置き、ゆっくりと過ごせる工夫をしている。		



54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人の馴染みの物、共に人生を歩んで来られた物、思い出深いものを持ってきて頂ける様に、家族に協力をお願いしている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレの表示・行事案内・お知らせの掲示。手すり、バリアフリーの設置で建物内を自由に過ごす事が出来る様支援している。</p>		

## 目標達成計画

作成日：平成23年8月11日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	※災害時の職員の緊急連絡体制の徹底と地域との連携をどう行うか ※火災発生時の対応 グループホーム1階・2階との連携 本館との連携	※災害時の地域との連携を図る ※利用者の安全な避難誘導	※運営推進会議等を通じて独居老人の把握と地域のマップ作成。地域役員との連絡体制確立 ※火災時の夜間想定での訓練を行い、全職員が対応出来る様にする。消火器の定期点検・火災通報訓練を行う。	6ヶ月
2	40	※グループホームにおける食事作り	※利用者の潜在能力の確立 ※生活リハビリを通じてADLの維持と向上 ※家庭的な雰囲気からくる安心感	※最初は週2～3回の副食作りから始め、徐々に回数を増やしていく。 ※一月に一回は利用者の好みの物を作る。 ※利用者の出来る事と出来ない事の把握をする。 また、利用者にとって負担になっていないか、毎日の表情等様子観察を行う。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。